

清美の涙

辻元



2015年7月15日

安全保障関連法案が衆議院特別委員会で採決された。

民主党は採決の際

「アベ政治を許さない」

「強行採決反対!!」

「自民党感じ悪いよね」

などと記されたプラカードを掲げて必死に抵抗。

浜田靖一委員長（自民）を取り囲んで「反対」と大合唱を浴びせ、議事進行を妨害した。

しかし法案は起立多数で可決された。

散会后、辻元氏は報道陣の取材に、抗議の言葉を述べた。

「私の祖父は戦争で死んでいる。

子供のころ、なぜ戦争になったのと祖母に聞いたら、分からないうちにそうなったと言われた。

戦争だけはアカン。

立法府の人間として、絶対そんな時代をつくらない。

戦争に進むちょっとした芽を摘まないと、歴史は繰り返す」

そう訴えながら清美は大粒の涙を流した。

悔しかったのだろう。

思想が違う人間はいるのだ。

信条が違う人間はいるのだ。

価値観が違う人間はいるのだ。

そして、話し合いで妥協点が見つかるとは限らない。

いくら話しても平行線のままと言うこともある。

話し合いを途中で打ち切り、力で押し切る相手もいる。

それは国でも同じ。

歴史、文化、民族性、政治体制・・・相違点はいくらでもある。

話し合いで解決することができないまま、力を行使されることもあるだろう。

その時が来た時、あなたは何をするのだろうか？

プラカードを掲げ、平和を訴える？

カメラ目線で涙を流して平和を訴える？

鐘や太鼓を打ち鳴らして平和を訴える？

ネクスト内閣官房副長官を名乗るのであれば、あらゆる状況を想定し日本の安全保障政策を考えるべきである。

平和を訴えるだけでは駄目なのだ。

理念だけでは国民を守ることはできない。

泣いている場合じゃない。